

# バングラデシュ

# People's Republic of Bangladesh

		2013/14年度	2014/15年度	2015/16年度
①人口:1億5,989万人(2015/16年度)	④実質GDP成長率(%)	6.1	6.6	7.1
②面積:14万7,570km <sup>2</sup>	⑤消費者物価上昇率(%)	7.4	6.1	5.9
③1人当たりGDP:1,385米ドル (2015/16年度)	⑥失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.
	⑦貿易収支(100万米ドル)	△6,794	△6,965	△6,274
	⑧経常収支(100万米ドル)	1,409	2,875	3,706
	⑨外貨準備高(ネット) (100万米ドル、期末値)	21,508	25,025	30,168
	⑩対外債務残高(グロス) (100万米ドル、期末値)	24,388	23,901	25,963
	⑪為替レート(1米ドルにつき、 タカ、期中平均)	77.72	77.68	78.26

〔注〕各年度は7月1日～翌年6月30日、①③～⑤⑩⑪の2015/16年度は暫定値、⑦:国際収支ベース(財のみ)  
〔出所〕①～③:バングラデシュ統計局、④～⑪:バングラデシュ中央銀行

2015/16年度(2015年7月～2016年6月)のバングラデシュ経済は堅調な内需に加え、投資増、貿易赤字の縮小が影響し、実質GDP成長率が前年を上回り7.1%となった。貿易は輸出総額の8割を占める衣料品輸出が順調に拡大した。海外労働者の郷里送金は減少したものの、経常収支は4年連続の黒字であった。バングラデシュ政府は2016/17年度のGDP成長率を7.2%と見込んでおり、引き続き安定した経済成長が続くとみられる。

## ■ 投資増と輸入減が経済成長を後押し

2015/16年度の実質GDP成長率は前年度の6.6%から0.5ポイント上昇して7.1%となり、8年ぶりに7%台に達した。基準年の2006/07年度から10年間の平均成長率は6.2%と安定的な成長を続けている。

需要項目別にみると、GDPの6割を占める民間消費が前年度比3.0%増、政府消費が8.4%増、民間投資が

表1 バングラデシュの産業別実質GDP成長率

(単位:%)

		2013/ 14年度	2014/ 15年度	2015/16年度	
		成長率	成長率	成長率	構成比
実質GDP成長率		6.1	6.6	7.1	100.0
需要項目別	民間消費	4.0	5.8	3.0	63.0
	政府消費	7.9	8.8	8.4	5.3
	民間投資	9.3	6.0	10.3	24.8
	政府投資	11.6	10.9	4.5	7.2
	財・サービスの輸出	3.2	△2.8	2.2	16.7
財・サービスの輸入		1.2	3.2	△7.1	18.6
産業別	農林水産業	4.4	3.3	2.8	15.4
	農林業	3.8	2.5	1.8	11.7
	水産業	6.4	6.4	6.1	3.7
	鉱工業	8.2	9.7	11.1	31.5
	鉱業	4.7	9.6	12.8	1.8
	製造業	8.8	10.3	11.7	21.0
	電力・ガス・水道	4.5	6.2	13.3	1.5
	建設業	8.1	8.6	8.6	7.3
	サービス業	5.6	5.8	6.3	53.1
	卸・小売業	6.7	6.4	6.5	14.0
	ホテル・レストラン	6.7	6.8	7.0	0.8
	運輸・通信業	6.1	6.0	6.1	11.3
	金融業	7.3	7.8	7.7	3.4
	不動産業	4.3	4.4	4.5	6.6
	行政・国防	6.9	9.8	11.4	3.6
	教育	7.3	8.0	11.7	2.4
	健康・社会活動	5.1	5.2	7.5	1.8
	コミュニティー・個人サービス	3.3	3.3	3.3	9.2

〔注〕構成比は必ずしも100にならない。

〔出所〕バングラデシュ統計局

10.3%増、政府投資が4.5%増となり、特に民間投資が前年度から4.3ポイントと大幅に増加した。産業別にみると、農林水産業は大雨の影響を受け不作で、前年度比2.8%増と0.5ポイント減少した。鉱工業は11.1%増と前年度比で1.4ポイント上昇した。前年度比11.7%増と例年好調な製造業に加え、活発なインフラ開発により電力・ガス・水道が前年度比13.3%増と前年度の6.2%増から大幅に上昇した。サービス産業は前年度比6.3%増と0.5ポイント上昇した。中でも政府がIT分野などの高度人材育成や初等・中等教育への予算を大きく割いたことにより、教育分野が前年度比11.7%増と最も高かった。

2015/16年度の消費者物価指数(CPI)上昇率は、国際的な原油および食料価格の下落により5.9%と、前年度比0.2ポイント低下した。しかし、不動産や電気などの非食品のCPI上昇率は8%台で高止まっている。2015/16年度の為替レート(期中平均)は1ドル=78.26タカで、前年度と比べてほぼ横ばいであった。

国際収支は、経常収支が37億600万ドルの黒字で、黒字計上は4年連続となった。好調な輸出により貿易赤字が減少し、経常収支の黒字に寄与した。経常収支の黒字を支える最大の要因は、海外労働者からの郷里送金である。2015/16年度は、前年度比2.5%減の149億3,100万ドルとなった。特に送金額が最も多いサウジアラビアは前年度比11.6%減だった。主要な送金元である中東諸国からの送金額が軒並み減少しており、原油価格下落による中東諸国での景気減速が影響しているとみられる。郷里送金の減少に関しては、銀行を通さない不正な送金

表2 バングラデシュの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2014/15年	2015/16年				2014/15年	2015/16年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
衣料品	25,491	28,094	82.4	10.2	綿・同製品	5,398	5,554	13.9	2.9
布帛	13,065	14,739	43.2	12.8	機械・同部品	3,496	4,195	10.5	20.0
ニット	12,427	13,355	39.2	7.5	鉱物性燃料・同製品	4,400	2,894	7.2	△34.2
皮革および同製品	1,131	1,161	3.4	2.7	電気機器・同部品	1,934	2,191	5.5	13.3
ジュートおよび同製品	869	920	2.7	5.9	鉄鋼製品	2,136	1,865	4.7	△12.7
ホームテキスタイル類	804	753	2.2	△6.3	プラスチック・同製品	1,615	1,560	3.9	△3.4
農産品	586	596	1.7	1.7	動植物性油脂	1,597	1,352	3.4	△15.3
魚介類	568	536	1.6	△5.6	穀物	1,688	1,202	3.0	△28.8
合計(その他含む)	31,076	34,105	100.0	9.7	合計(その他含む)	40,579	40,098	100.0	△1.2

[注] ①輸入総額には輸出加工区、借款・贈与分を含む。

②2015/16年度は暫定値。

[出所] バングラデシュ輸出振興庁およびバングラデシュ中央銀行

表3 バングラデシュの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2014/15年	2015/16年				2014/15年	2015/16年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
米国	5,783	6,221	18.2	7.6	中国	8,224	9,669	24.1	17.6
ドイツ	4,705	4,988	14.6	6.0	インド	5,828	5,453	13.6	△6.4
英国	3,205	3,810	11.2	18.9	シンガポール	2,199	1,925	4.8	△12.5
スペイン	1,754	1,999	5.9	14.0	日本	1,524	1,644	4.1	7.9
フランス	1,744	1,852	5.4	6.2	インドネシア	1,398	1,236	3.1	△11.6
日本	915	1,080	3.2	18.0	韓国	1,223	1,145	2.9	△6.4
合計(その他を含む)	31,076	34,105	100.0	9.7	合計(その他を含む)	40,579	40,098	100.0	△1.2

[注] ①輸入総額には輸出加工区、借款・贈与分を含む。

②2015/16年度は暫定値。

[出所] バングラデシュ輸出振興庁およびバングラデシュ中央銀行

の増加も指摘されている。郷里送金は経常収支を黒字化させ、経済の安定化に欠かせない財源である。不正送金が好調な経済にマイナスの影響を与えることが懸念される。

政府予測によると2016/2017年度の経済成長率は7.2%で、2年度連続で7%台を達成する見込みだ。しかし、前年度以上の大雨に見舞われた農業、米国の大統領選挙後の政策変更やBREXITなどにより主に欧米諸国向けの輸出の鈍化が懸念されている。

### ■テロ事件による経済への影響は軽微

2016年7月1日に発生したダッカ襲撃テロ事件では、日本人7名を含む人質20名が殺害された。この事件は現地社会に大きな影響を与え、日系企業も出張や行動制限をしながらの操業を余儀なくされた。外務省によれば、在留邦人数は2016年10月1日時点で848名と、985名(2015年10月1日時点)から100名超減少した。

事件後の2016年10~11月にジェトロが実施した「2016年度アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」によると、今後1~2年で事業を拡大すると答えた企業の割合は66.7%で、前年度調査から0.7ポイント微減したものの、調査対象の20カ国・地域中でも高い水準だった。

バングラデシュの投資環境上のメリットについては、人件費の安さ(78.0%)、市場性/成長性(56.0%)、一般

ワーカー・スタッフの雇いやすさ(44.0%)などが上位を占め、全ての項目で前年度調査から10ポイント前後上昇している。事件以降、操業や駐在員の生活には影響があるものの、前述のとおり2016/17年度も2015/16年度同様、経済は7%台の堅調な成長を続ける見込みであり、日系企業のビジネスへの影響は軽微だといえるだろう。

### ■輸出は増加も輸入は減少

2015/16年度の輸出は前年度比9.7%増の341億500万ドルと過去最高を記録した。中国に次ぐ世界第2位の輸出を誇る衣料品が牽引し、品目別シェアでは、82.4%を占めた。衣料品の輸出額は前年度比10.2%増の280億9,400万ドルで、中でも布帛品の伸び率が12.8%増の147億3,900万ドルだった。好調な衣料品輸出だが、2016/17年度の見通しについて、バングラデシュ縫製製品製造業・輸出業協会(BGMEA)のシディクール・ラーマン会長は、「BREXITや米国大統領選挙による主要輸出国の政策変更により、輸出に影響が出るだろう」と予測している。

次いで、皮革および同製品が2.7%増の11億6,100万ドル、ジュートおよび同製品が5.9%増の9億2,000万ドルと続いた。皮革および同製品の内訳をみると、皮革自体の輸出が前年度比30.1%減と大幅に減少する一方、革靴を除く皮革製品は55.8%増、革靴は2.3%増と伸びている。バングラデシュ革製品履物製造者・輸出者組合

のサイフル・イスラム会長によると、環境への配慮や付加価値の低さから、皮革の輸出量は年々減少しているという。他方、皮革製品は製造技術向上により輸出額は上昇傾向にある。

輸出を国・地域別にみると、衣料品製造を委託する欧米諸国が上位を占める。米国が前年度比 7.6%増の 62 億 2,100 万ドルと首位だった。次いで、ドイツが 6.0%増の 49 億 8,800 万ドル、英国が 18.9%増の 38 億 1,000 万ドルと続いた。EU 向けの輸出をまとめると全体の 54.8%を占め、12.7%増の 186 億 8,700 万ドルとなった。

2015/16 年度の輸入は前年度比 1.2%減の 400 億 9,800 万ドルだった。輸出が好調な衣料品の原料である綿・同製品は 2.9%増、インフラ需要に伴い機械・同部品は 20.0%増だった。続く鉱物性燃料・同製品は 34.2%減と大幅に減少した。世界的な資源安に加え、政府補助金の削減により調達量が減少した点が影響したとみられる。

輸入を国・地域別にみると、綿・同製品の輸入先である中国とインドが、輸入額の 37.7%を占める。特に中国からの輸入は全体の約 4 分の 1 に上り、綿・同製品(10.6%増)に加え、13.4%を占める電気機械・部品が 28.3%増と大幅に伸びたため、全体で 17.6%増の 96 億 6,900 万ドルとなった。

## ■ 海外直接投資の増大が課題

2016 年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比 4.4%増の 23 億 3,300 万ドルだった。投資の種類をみると、新規投資比率は 2015 年の 31.2%から 2016 年は 39.0%へ増加した。

国・地域別にみると、シンガポールが前年比 3.8 倍の 6 億 7,300 万ドルで首位となった。次いで、英国が 9.6%増の 3 億 3,000 万ドル、米国が 62.0%減の 2 億 1,800 万ドルと続いた。日本による投資は前年比 6.7%増の 4,800 万ドルであった。業種別にみると、通信分野が前年に 2.2 倍の 5 億 7,300 万ドルと最大だった。2016 年の主な投資案件としては、シンガポール・テレコムがバングラデシュ・エアテルに行った 3 億 5,900 万ドルの投資であった。

投資残高では、2016 年末時点で 145 億 3,900 万ドルとなった。国・地域別にみると、米国が 33 億 3,200 万ドルで首位、次いで英国、シンガポールが続いた。米国はシェブロンなどの石油・ガス分野、英国は銀行などの金融分野での投資が目立つ。今後の見通しとして、シェブロンが運営するガス掘削事業を中国企業に売却する案件が進んでいる。本案件は 20 億ドル規模とみられ、これが実現すると、中国の直接投資残高は 2016 年末時点の 16 位(2 億 4,100 万ドル)から首位になる。

政府は 2016 年から 2020 年までの第 7 次五か年計画に

表 4 バングラデシュの主要国・地域別対内直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー・残高＞

(単位:100 万ドル、%)

	2015 年		2016 年		投資残高	構成比
	金額	金額	構成比	伸び率		
シンガポール	175	673	28.8	284.6	1,244	8.6
英国	301	330	14.1	9.6	1,514	10.4
米国	574	218	9.3	△62.0	3,332	22.9
ノルウェー	78	160	6.9	105.1	197	1.4
韓国	150	151	6.5	0.7	1,119	7.7
中国	57	61	2.6	7.0	241	1.7
日本	45	48	2.1	6.7	319	2.2
合計(その他含む)	2,235	2,333	100.0	4.4	14,539	100.0

〔注〕 2016 年は暫定値。投資残高は 2016 年末時点。

〔出所〕 バングラデシュ中央銀行

表 5 バングラデシュの業種別対内直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー・残高＞

(単位:100 万ドル、%)

	2015 年		2016 年		投資残高	構成比
	金額	金額	構成比	伸び率		
通信	255	573	24.6	124.7	1,468	10.1
縫製	443	364	15.6	△17.8	2,564	17.6
電力	248	268	11.5	8.1	1,018	7.0
石油・ガス	326	166	7.1	△49.1	3,727	25.6
銀行	310	177	7.6	△42.9	1,920	13.2
合計(その他含む)	2,235	2,333	100.0	4.4	14,539	100.0

〔注〕 2016 年は暫定値。投資残高は 2016 年末時点。

〔出所〕 バングラデシュ中央銀行

において、2020 年までに実質 GDP 成長率を 8%まで引き上げることを目標としている。そのためには GDP に占める投資比率を 35%まで上昇させる必要がある。2015/16 年度の国内投資比率は 29.7%(うち民間投資比率 23.0%)と過去最高を記録した。過去の推移をみても、2007/08 年度以降、投資比率は順調に増加している。他方、政府は 35%の達成には海外直接投資の増加が不可欠だとしている。世界銀行によると、2015 年のバングラデシュにおける海外直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)の対 GDP 比は 1.7%で、178 か国中 123 位と世界でも低い水準にある。政府は新たな経済特区の開発や行政手続きの改善など、外国企業の誘致政策を推し進めている。

## ■ 外国政府の援助によるインフラ開発

諸外国の経済援助による開発案件も経済成長に寄与する一因だ。2014 年 9 月に安倍首相がバングラデシュを訪問し、6,000 億円の政府開発援助(ODA)を約束した。日本以外では、中国が 2016 年 10 月、習近平国家主席の訪問に合わせ官民合計 400 億ドルの支援を表明、インドが 2017 年 4 月、ハシナ首相のインド訪問時に 50 億ドルの追加支援を含む累計 80 億ドルの借款を決定した。これらの援助は主にインフラ開発に充てられ、脆弱な産業インフラを大きく進展させる可能性がある。

なお、2016/17 年度のインフラ整備について、政府は前年度のパドマ橋、パイラ港、ダッカメトロ 6 号線など 8 案

件に、パドマ橋鉄道施設、コックスバザール・グムダム間の鉄道施設の2案件を最優先プロジェクトに加えた。2017/18年度も同10案件が最優先案件として指定され、開発を急いでいる。

### ■ 対日輸出が大幅増、ニット製品がけん引

2015/16年度の対日輸出は前年度比18.0%増の10億8,000万ドルと、前年度の6.2%増から加速した。輸出の7割超を占める衣料品は18.5%増の7億7,400万ドルだった。財務省の輸入統計によれば、2016年のバングラデシュから日本への衣料品輸入額は中国、ベトナムに次いで第3位と主要な輸入国となっている。衣料品のうち、特にニット製品が36.8%増と全体を牽引した。2015年4月1日より日本の一般特惠関税制度(GSP)が適用されるニット製品の加工工程基準が2工程から1工程に緩和されたことが主因とみられる。GSP適用により、後発開発国(LDC)であるバングラデシュ原産品の輸入関税は無税となる。原料の現地調達が可能で皮革製品は27.3%増の2,800万ドルと大幅に増加した。特に皮革製品の約8割を占める革製のハンドバッグが好調だった。

対日輸入は前年度比7.9%増の16億4,400万ドルだった。品目別にみると、輸送機器が45.1%増の3億8,900万ドルで首位となった。インフラ整備の加速によりトラックやクレーンなどが好調だった。加えて、中古自動車の輸入も大幅に伸びた。他方、インフラおよび住宅需要により鉄鋼の輸入量は増加しているが、世界的な供給過剰から鉄鋼価格が低く抑えられ、金額ベースでは14.4%減となった。

### ■ 病院事業に大型投資

2016年の日本からの対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比6.4%増の4,800万ドルだった。投資残高は3億1,900万ドルで上位国と比較すると金額は小さいが、多分野への投資がみられるのが特徴だ。バ

ングラデシュ政府は産業多角化を基本政策の一つとして掲げており、日本の投資は高く評価されている。進出日系企業数は、2017年6月時点で253社となり、前年の4月から10社増加した。近年は国内市場を対象としたビジネスの進出が目立つ。2016年に最も大型の投資を行ったのは、病院経営を行う日本とバングラデシュの合弁会社シップ・アイチ・メディカルで、投資額は16億5,400万ドルだった。2017年以降にもさらなる追加投資を見込んでおり、新病院の設立を計画 중이다。

### ■ 求められるバランス外交

バングラデシュは、域内経済連携の枠組みとして、南アジア地域協力連合(SAARC)、ベンガル湾多分野技術・経済協力イニシアチブ(BIMSTEC)、バングラデシュ・中国・インド・ミャンマーをつなぐ経済回廊(BCIM-EC)構想に参画している。中でも、中国内陸部からインド洋へ抜けるBCIM-ECは、中国の「一帯一路」構想における「陸のシルクロード」の一部を構成することから注目を集めている。2016年10月には中国の習近平国家主席がバングラデシュを訪問し、インフラ整備を中心とした経済援助が決定した。貿易面でも最大の輸入相手国であり、FTA締結も含めた経済協力関係の深化も図っている。

他方、隣国のインドとの関係も深める。2017年4月にはハシナ首相がインドを公式訪問し、防衛、発電、インフラ整備などで協力することで合意した。しかし、インドが2017年5月に北京で行われた一帯一路国際協力ハイレベルフォーラムを欠席したことは、バングラデシュの外交に影響しそうだ。インフラ開発の進展が期待できるとして中国の一帯一路構想を歓迎しているものの、同フォーラムにバングラデシュが閣僚級以上の人材を派遣しなかったのは、インドへの配慮とされている。

バングラデシュは東アジアと南アジア結節点に位置しており、中国、インド双方にとって地政学的な重要性が高い。今後は両国とのバランスを取る外交が求められる。

表6 バングラデシュの対日主品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2014/15年	2015/16年				2014/15年	2015/16年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
衣料品	653	774	71.7	18.5	輸送機器・同部品	268	389	23.7	45.1
布帛品	373	391	36.2	4.8	鉄鋼	404	346	21.0	△14.4
ニット	280	383	35.5	36.8	船舶	451	315	19.2	△30.2
履物・部品	95	98	9.1	3.2	機械・同部品	162	256	15.6	58.0
機械・同部品	30	44	4.1	46.7	電子機器・同部品	12	57	3.5	375.0
ホームテキスタイル類	30	37	3.4	23.3	プラスチック・同製品	27	50	3.0	85.2
皮革製品	22	28	2.6	27.3	精密機器・同部品	23	30	1.8	30.4
合計(その他含む)	915	1,080	100.0	18.0	合計(その他含む)	1,524	1,644	100.0	7.9

[注] ①輸入総額には輸出加工区、借款・贈与分を含む。

②2015/16年度は暫定値。

[出所] バングラデシュ輸出振興庁およびバングラデシュ中央銀行